

祝祭空間と一九世紀型パレードに見る政治文化

——アメリカ合衆国史における研究動向と課題——

田 中 きく代

はじめに

一九世紀アメリカ合衆国の政治文化を考察するにあたって、祝祭空間、特に一九世紀に一般的になったパレードというアメリカ独特の祝祭儀礼への関心が高まっている。建国期のナショナリズムとの関係を問うニューマンやウォルドストレイチャーの研究とともに [Newman : 1997, Waldstreicher : 1995]、ライアンの一連の研究が契機となったといえるが [Ryan : 1989, 1997a]、このパレードへの関心には二つの流れがある。一つは民衆自決による民主主義を支持する公民を作るための装置であったという、政治史からの関心である。従来、この時代の政治参加について、ジェナップの「参加的民主主義」の黄金時代説とする立場と [Gienapp : 1982]、それを批判する、アルツシュラーとブルームン、シュドソンらの「見世物まがいの政治」とする立場の間での論争が長く続いてきたが [Altschuler, Blumin : 1997, 2000 ; Schudson : 1997, 1998]、最近、ペイズリーらが主張する祝賀政治という観点から、一九世紀の政治を問い直そうとする、ある意味で包括的な折衷案をとる立場が主流になりつつある [Pasley : 1999]。祝賀政治の意味、

人々のそれへの参加を問い直すことで、当時の一般の人々の政治への係わりによる、政治風土の特質を捉えようとしている。

もう一つの研究関心は、パレードの成立によって、従来になかった新しいコミュニケーションの形態が誕生したという社会的な関心であるが、ジャクソニアン期以降のジェントリ的な共同体から「社会的コミュニティ」に再編されていく時代に、新しい社会結合の有り様を模索し、従来の地域的な帰属意識を越えた新しい帰属意識を生み出すのに、パレードが一役買ったとされる。資本主義的なものへの浸透、国民形成の開始というプロセスの中で、政党を通して多くの人々が「アメリカ的なもの」に係わり始めたが、パレードというイデオロギーが凝縮された存在を、エリートと一般の人々の間に介するチャネルとして把握することが論議される [Davis: 1986]。

本稿では、祝祭空間あるいはパレードへのこうした問題関心を通して、一九世紀の政治文化に関する研究動向と課題について考えたい。ことに、パレードは公的空間としてのメイン・ロードを歩くことに意味があるので、この歩く意味を公共圏への一般の人々の接近という視点から再確認することにした。

一 一九世紀型パレードの成立と特徴

フランス革命期の研究家であるハントやオゾーフの影響を受けて [Hunt: 1989, Ozouf: 1988]、ライアンは新しい文化史としての政治文化の領域に分け入ったが、ことに彼女の「アメリカ合衆国の一九世紀の初頭にパレードという行列の形態が成立した」という主張は大きな影響を与えた [Ryan: 1989, 1997 b]。ニューヨーク、ニューオリンズ、サンフランシスコの当時の新聞から、それまで見過ごされてきた祝祭とパレードに関する情報を分析した結果、

『市民の戦い』の場である公的空間としての祝祭を具体化し、おそらくは一八二〇年代に、エリー運河開通記念祭の頃に、祝祭におけるパレードの形態が生まれたと主張したからである。エリー運河開通記念祭は、市場革命によってアメリカ経済を大きく変化させることになる大工事の完成を祝う祭りとして、それ自体としても意義があるが、別稿で議論するように、独立期からジャクソニアン期に橋渡しをする時代、つまり独立記念日五〇周年を七月四日に祝おうとする「好感情の時代」の一連の祝祭群のひとつでもあるので、建国の祖父たちを神格化し新しい時代への記憶を作り出そうとする目的も持っていた [Seelye: 1985; DeBolla: 2007; Travers: 1997]。だから、パレードの成立はより広い次元では、独立記念日五〇周年を祝うという共通の経験を通して、国家的枠組みの中に自らを位置づけようとした各地の都市の試みでもあったろう。

ここで、こうしたパレードを「一九世紀型パレード」と名づけると、時代が移るにつれ、アングロ・サクソン系の人々や職人たちが歩いた当初から [Wientz: 1984]、移民集団が主流となる一九世紀末まで、主たる行進者は次第にその時に市民権の主張を必要とするものに変遷していくが、このパレードの形態は一九世紀を通じて維持され続け、少なくとも二〇世紀初頭まで実施された [McNamara: 1997]。第一次世界大戦が終わるころになると、一九二四年開始のメーシー百貨店のサンクスギビング・パレードのように、パレードは商業的目的を顕著にするようになるが、黒人や移民といったマイノリティの世界では、少なくとも二〇世紀の後半まで、集团的アイデンティティを誇示する手段として使われた [Gutiérrez: 1989; Kurashige: 2002]。一九世紀型パレードは、一九世紀二〇世紀と、より多くの一般の人々を動員し、そのアメリカ合衆国への帰属意識を駆り立てるのに役立ったといえる。

ここで、一九世紀型パレードの特徴を明示しなければならぬが、一般にパレードというと、従来の行列 procession を思い浮かべるかもしれない。人類の文明の当初から、祝祭に付随したものとして行列は存在し、たとえば、原始時

代には、狩りに行く男たちを送り、その帰還を祝う行列があった。古代オリエントやギリシアやローマでも、凱旋式は言うに及ばず、宗教的な儀式には行列がつきものであったからである。研究史上でも、パレード研究の嚆矢であったジェニングスの研究では、両者の用語は同義で使われている [Jennings: 1996]。また、一九世紀になってからのボスターなどでも用語の混同もみられ [McNamara]、例えば一八八〇年のボルチモア市の都市創設記念日では、プログラムに *procession* という用語が使われてさえいる [Baltimore: 1880]。

また、一九世紀型パレードも、従来の行列も儀式の装置として作動し続けてきた行列が保持してきた機能に変わりはない。デービスが主張するように、パレードが *Street Theater* 「路上での演劇」と称される点では [Davis]、すなわち、①行進への参加者の「演技」を、観衆が「観劇」すること、②感動を受けた観衆が行進者に賛意（時には弔意）をささげることで参加すること、③比較的限られた空間で、より多くの人々を参加させること、④瞬時的に創造され固定化されていく過去を、創造とともに記録していったこと、⑤また、為政者たちが、何らかの政治的な意図によって、パレードを利用した点では、共通性を持つものである。

しかし、従来の行列の行進者と、それを見る観衆の行為は、ここでいう一九世紀型パレードのものとは趣を異にする。一九世紀の初頭にアメリカ合衆国で生まれたとされるパレードは、「公式な祝祭で、市民が隊列を組んで、一糸乱れず、組織的に行進する」もので、秩序だった行列である。職業集団、社会改革運動の集団、移民集団、企業、労働組合などの複数の小隊が中隊をなし、その中隊が複数集まって大隊を形成して歩く類のものである [Ryan: 1989]。一九世紀型パレードは、祭りの開催の頻度が急増したことも関係して、パレード自体が祝祭のメイン・イベントとしての位置をしめ、様々な機会を捉えて実施されたことでも大きく異なる [Burnstein: 2007, McNamara: 1997]。

ライアンは、祝祭は、国家的な記念日、都市の創設記念日、大土木工事を祝う祭り、選挙のキャンペーンの過程で、功労者の葬式、市民集会といった様々な機会に行われ、多くの人々を動員したが、パレードはその動員における重要な役割を果たしたとしている [Ryan : 1997 a]。移動の要素を加えることで、比較的限られた空間に、より多くの人々を集めることができ、その開放性によって、様々な人種・エスニシティ、階級、ジェンダーを超えた人々を、公共圏での祝祭という共通体験に誘うことができたのである。こういう意味では、また、公道を歩くという行進の目的や到達点が明示されている点でも特徴的である。デービスによると、東部社会の十字型の街では、市庁舎や教会のある中心部が聖なる空間であり [Davis]、祝祭のメインテーマを映し出すアーチャ、閱兵式のようなステージが設けられていた。だから、パレードはそこに向かっての大路をたどることで有効性を持つ空間であり、観衆を *civic virtue*（市民としての徳性）を持つ公衆としての存在に育成する意味でも、公道を歩く市民が聖なる目的地へと続く空間を瞬時に支配することが必要であった。

それでは、なぜ、一八二〇年代ごろに、アメリカ合衆国でパレードが出現したのであろうか。一般的に言えば、アメリカ社会は、東部沿岸地域で産業革命が起こり、市場革命によって東部と西部が次第に連結され始めた時代であったことがある。社会的流動性が高まり、コミュニティのレベルでは、社会的コミュニティへの編成の過程で、コミュニティのあり方が根底から崩され、アイデンティティが再構築される時期であった [Wiebe : 1975, 1995]。また、男子のみとはいえ、普通選挙法が実施され、一般の人々を市民として国家に取り込むという意味で、国民形成が開始されたときで、新しい政治、経済的秩序により多くの人々が包含されていく時代である。名望家政治から政党政治への移行期でもあり、市民権の拡充の中で、一九世紀的ナショナリズムの表出、ブルジョワ的価値観の提示、公共性を重んじる市民の徳性を、一般の人々に認識化させるために、人々を動員できる祝祭、ことに、ワシントン大統領記念日

のように独立戦争や建国の祖父たちを祈念する祝祭、アメリカの未来を保証するようなクロトン水道、エリー運河などの大土木工事を祝う祝祭が増加したのである [Bunstein : 2001 ; McGarr 1988]。

さらにマクナマラが述べるように、町を挙げての祝祭には、演劇、演説、宴会、舞踏会、共進会、花火などがつきものであったが [McNamara]、普通の人々が登場し始めた時代に新たに生まれたパレードは、市民が公衆としてみずから主張する場であり、他者を承認する直接参加の場として人々が参加し始めた公共空間であった。また、その場は楽団の音や暴力的騒動で騒がしかったものの、集団に帰属する人々を明示して、社会的ヒエラルキーを整然と可視化する空間でもあった。祝祭という儀式は、その儀式に参加した人々が、共通の過去を確認し、過去を創出するプロセスであるが、その重要な装置の一つであったパレードは、その過去との対話による共通の幻想を公的記憶として表出させる際に、権力構造の可視化と、アイデンティティの紐帯を目的とする多様を包括するページェントであった [Hobsbawm : 1991 ; Bodnar : 1992]。

二 パレードの企画者と行進者

祝祭におけるパレードの研究における論点を挙げると、まず、第一にはパレードの企画者、行進者の相互関係ならびにそれぞれの目的が明示されなければならない。次に、第二にはパレードの観衆がパレードに何を見たのか。第三にパレードに共有されたイデオロギー、集団的記憶の表象がいかに表出していたかが問われなければならない。

本節では、第一の論点に関して、パレードの企画者は誰であったのか、行進者はいかなる人々であったのかから論じると、このことはどのような政治的意図のもとで、公衆が作られるかという問題と絡んでいるのが理解される。国

家的なものでも地域的な祝祭でも、アルツシュラーやブラーミンが主張しているように [Altschuler, Blumin: 1997, 2000]、公的な祝祭のパレードは、地域のエリート、すなわち、市長や新聞の主筆といったオピニオンリーダーたちが企画していて、彼らのリーダーシップが強調される。合衆国の場合、中央政府の影響を直接的に受ける祝祭パレードは少なかったが、これについては、ライアンはフランス革命期の国家的な介入と比べて、アメリカにおいては地域性を特徴として上げ、一九世紀のアメリカ民主主義の下からの醸成プロセスを強調している [Ryan: 1997 a]。もちろん、アメリカの方が、一般の人々の自発性があったというわけではない。アルツシュラーらの論点は、一九世紀のアメリカに誕生した祭りのパレードで、公衆を作ることにおいて、地域リーダーたちの政治的意図が強く働いていることを指摘している。

行進者については、男性で市民であることが前提とされたが、ある特定の個人集団を、表立って排除する規定はなかった。社会的な差別の力学による排除の場合を除いて、行進を希望する者の多くは参加を許容されたようである。もっとも、百パーセントの市民権を持っているものが、行進の参加者として、市民であることを誇示して公道を歩くのであるから、部分的な市民権しか認められていなかった女性は、企画段階や準備段階、また行進以外の催し、例えば晩餐会などでは積極的に参加しているものの、パレードで公道を歩くことはできなかった [Ryan: 1997 b; McNamara: 1997]。

また、身体の誇示によってみずからの市民権をアピールするのであるから、奴隷ではない自由人であったものの、ほとんど市民権を認められていなかった南北戦争前の北部の黒人の参加が許容されたわけではない。このことは、北部の黒人たちが独立戦争後約三〇年を経て初めて解放された時のニューヨーク市の事例に明確に示されている。ホワイトが述べるように、州法によって黒人たちは一八二七年に自由を獲得できることが定められていた。もっとも、黒

人たちにとって、自由を得ても、政治的市民権のみならず、社会的市民権もほとんどなく、北部の黒人コミュニティは、ある種のセグリゲーションを経験していくのであるが、「解放の日」は黒人の人々にとって、待ち焦がれたものであった。七月四日に独立記念日のパレードに参加し、実際は七月五日に実施されたが、メイン・ロードを歩く特権を享受することによって解放による自由の獲得を示そうとした。マイノリティ側の逮捕や暴力沙汰を覚悟した行為に、黒人の人たちが身体を見せて解放を観衆に披露しなければならなかった社会状況と、また、白人の人と同じく黒人の人々にとっても、行進こそが自由を示す手段であったことが理解される [White: 1994]。

ところで、パレードは個人が歩くだけではなく、集団で歩くことに意義がある。集団として公道を歩いて、数としての身体を誇示することで、みずからの「アメリカ社会での帰属する位置」をアピールしたからである。一九世紀のそれぞれの時代に、集団の主張によって権力を誇示したり、自らの集団の存在を認知させたりする人々や、改革運動を訴える人々がパレードに参加した。一九世紀の当初はアングロ・サクソン系の人々が主で、自らの職業を示す道具を持った職人たちが歩いたことは述べたが、世紀中葉になると、権力を確立したエリート集団はもはや歩く必要がなくなり、身体を観衆に見せなくなった。職人層も勢力を減じ、労働者が増大してくる中で、メイン・ロードは、ビジネス、警察や消防といった職業集団、社会改革の集団、旧移民の集団が踏みしめるようになった。一九世紀の後半になると、メイン・ロードは移民集団のみが次第に占めるようになり、世紀末には、旧移民のみならず、イタリア系や東欧からの移民を主体として、新移民の移民集団も歩き始めている [Speroni: 1948]。このように、一九世紀の進展によって、時代の担い手、あるいは行進によって自己主張をする人々に変遷していたが、行進に参加する人々の変化を追うことで社会の権力構造の特質が理解される。

三、パレードの観衆

次に、パレードの観衆たちに話を移すが、パレードがメイン・イベントになったのには、移動を伴う儀式であるがゆえに、多くの人間を比較的限られた公的空間に参加させえたという点が再び指摘できる。デービスによると、フィラデルフィア市の創立記念日は一八二〇年直前の頃に始まるが、町中が港に浮かぶ船から家々まで建国の物語で裝飾され、町中をあげての娯楽の公的空間が出現し、その際にパレードが実施されたという [Davis]。また、バーンスタインによると、エリー運河開通記念祭では、沿岸の地では、いろいろな催しとともに、パレードが行われた。たとえば、ニューヨーク市やバッファロー市では、ほとんどの市民が歩き、観衆も市の外からも見に来ていたようである。ボスターやブロードサイドが残されており、長期的に企画をし、多くの人々に観衆としての参加を訴えたことがわかる [Bernstein : 2005]。

こうした意味では、パレードは、経済的社会的変革にあわせた市民形成を促す装置であったといえ、市民とみなされていなかった人々がパレードを見ながら、建国の物語を思い出し、その共和主義的な記憶を承認し、アメリカの繁栄を祝いながら、一九世紀的民主主義の醸成に関与する「場」となった [Burnstein : 2001, Bodnar : 1992]。だから、パレードでは、一般の人々の直接的な観衆としての参加を通して、記憶や記録の確認や承認を意図したプログラムが企画された。すなわち演劇、演説、宴会、舞踏会、共進会、花火などの他に、その祭りに特徴的なプログラムが組まれたが、パレードは、それらの総仕上げで、そうしたすべてのものを包含する、多様な社会の縮図を表現するページェントとなった。

また、多様な社会の縮図という意味では、階級、人種・エスニシティのボーダーを越えた観衆が参加する文化的ボーダーランドの空間であり、一般の人々が共通体験によって、アメリカ社会の一員として行進者と同一化すると同時に、観衆が自らの所属する集団の位置を再確認するという意味で、多様な公共圏が交錯して見える空間である [Michaelsen : 1997 ; Jackson : 1998 ; 田中 : 2007]。祝祭を通して、観衆が公衆となる中で生まれた、共通のアイデンティティ、社会の有り様はいかなるものであったのか。また、市民でなかった人々は、いかなる思いを抱いたのか。こうした文字史料では語りえない歴史を、パレードは記録し語り伝える。

エリー運河開通記念祭では、進歩と繁栄の祝典として開催され、その共通体験には、偉大な国アメリカ、西部への進展の希望が見られる。アングロ・サクソン系の優越意識、アメリカ例外主義、自由の証としての土地というイデオロギーも見出せる [Kulkoff : 1992 ; Foner : 1999]。理想的な家族像の提示など、ブルジョワ的価値観の提示も顕著に見られるが、市民権の拡充の時代における、公共性という *civic virtue* の観念を一般に認識させることが根本にあったとされる [Ryan : 1997 a]。ブルジョワの女性はブルジョワであることを明示して、下の階級との切り分けを図ったとされるが [Stansell : 1990]、同時に、メイン・ロードをパレードして歩けない存在であった女性は、ブルジョワ女性といえども他者に身近な親しみを持たせることに役だったし、家族の主要な一員としてのブルジョワ女性の姿は、上昇志向の時代の人々に将来への約束或いは未来像を示唆するものでもあった [田中 : 2005]。一九世紀のパレードの持つコミュニケーションとしての機能は、マジョリティとマイノリティの融和・対立といった諸関係を作り出し、一九世紀アメリカ民主主義の醸成プロセスで、マジョリティとマイノリティの明確な線引きをしながらも、長期的にはマイノリティをアメリカ社会に誘う役割を果たしたといえる。

さらに、リンカーンの葬列やエリー運河開通祭など、大規模な祝祭では、パレードは一都市のパレードにとどまら

ず、広域をつなぐイデオロギーの移動を果たしたことも特筆できる。葬式列車や、エリー運河の船が、リンカーンの場合はワシントンDCからイリノイ州まで、運河の場合はバッファローからニューヨークまで長距離を移動しているが、それらはパレードを連続的に広域に広げていき、そのルートの沿道の人々をも観衆に巻き込むものであったことが特筆できる。沿道では、リレー式に伝えられた大砲の音や、常緑樹やかがり火で造られたアーチなどの儀式のための道具立てとともに、それらの地でのパレードや晩餐会或いは追悼式なども実施されたからである [Trostel: 2002; Bernstein]。

四、パレードに見られる表象

さて、パレードを分析するに当たって、そのプログラムなどが検証されなければならないが、それには表象分析が必要となる。ここでは、パレードに見られる表象表現について、重要点をまとめておくことにする [Henderson: 2006]。

パレードの表象に関して、まず第一に、集団間の序列に触れなければならない。集団は、小隊、中隊、大隊を形成して歩くと述べたが、その順番は時には色分けされ、小隊による中隊の構成の仕方、また中隊による大隊の構成の仕方にアメリカ社会での当時の集団の序列が可視化されている。言い換えると、アメリカ社会の権力構造の可視化（時には不可視化）によって、人々に権力関係の構築を見せることが図られたといえる。

たとえば、リンカーンの葬列は八大隊で、バルティモアの一九一〇年祭（一八八〇年）は一〇大隊で構成されている [McNamara: Baltimore]。リンカーンの場合は、国家の葬式という色彩を帯びたので、一九世紀中ごろのほぼすべて

の集団、職業集団、エスニシティ集団、宗教団体、改革運動の団体企業が参加している。黒人が公的なパレードに招聘されたのも、リンカーンの葬列においてであるが、リンカーンの偉業をたたえるために、奴隷解放の象徴として、黒人の人々が歩くことが求められている [Prokopowicz: 2009]。一五〇年祭の方は、世紀末であり、メイン・ロードを歩くのは、移民集団や、産業的な集団が主になってくるが、最初に植民地時代の回想として、ネイティブ・アメリカンやヴァージニアの総督ジョン・スミスが登場してくる。この意味では、パレードが国史の物語の再演であることを明確に示している [Baltimore]。

第二に、パレードでは、行進者の小隊、中隊、大隊のくぎりに、テーマを持つ山車や楽団が登場していることがある。一八六九年のサンフランシスコ市のコロンバス・デイでは、コロンブスの山車に続いて、アメリカとスペインの女神像を示す二人の女性が登場している [Speroni: 1948; Scarpa: 2008]。リンカーンの葬式の山車では、三八州を表す白い服を着た三八人の女神が弔意を示す黒のサッシュを締めて登場する [Trostel]。このように、女性は、パレードで歩くことは禁じられていたが、世俗を超えた女神像として多く登場する。都市の創立記念日などでは都市の表象としての女神像も多く見られる。特にアメリカの象徴、女神コロンビアの像は様々なところで登場する。例えば、エリー運河記念祭のポスターなどにも描かれているし、リンカーンやクレイなど偉人の死を悼むコロンビアは棺を抱く嘆き悲しむ女性として描かれている。ただ、コロンビアをはじめ、これらの女神像は、一様にブルジョワ女性の姿をしている。女神たちの世俗を超えた象徴表現において、ヨーロッパの貴族の女性像に似せたブルジョワ女性の姿をしていることは、女性の「不完全さ」を理由に百パーセントの市民権を与えなかったと同時に、豊かな女性の高貴さに基づく権威を認識しているという、当時の両義的な女性観を指摘できる [McNamara; Ryan: 1997 a]。

小道具での表象としては、集団を表彰する衣服や記章などのほかに、集団のロゴ、旗など、集団の共通性を明示す

る表現があちこちに見出せる。一九世紀初頭の職人が歩いたパレードの一例では、職人たちはそれぞれ自らのクラフト（道具）を持って歩いたが、肉屋は牛を引いて歩いたという記述がある。最後の宴会では、それを屠って、皆で興じたものらしい [Alschuler : 2000]。

第三に、移民集団による祭りについても触れておこう。アイルランド系は、リンカーンの葬列時に見られるように、一九世紀の中ごろには、彼らの職業集団であった警察、消防の一員として、あるいはアイルランドでの出身クランの集まりによって [Miller : 2001]、公的祝祭でメイン・ロードを歩くようになった。彼らの市民権の獲得がネイティブズムを生み、政治問題化されるほどであったが、彼らのコミュニティにおける民族的な祝祭にも変化が訪れた。たとえば、セント・パトリック祭は、一八世紀の末から、アイルランド系移民によって祝われていたし、一九世紀の初めにはコミュニティ内の大路で一九世紀型パレードの類は行われるようになっていた。しかし、ニューヨーク市やミルウォーキー市の場合のように、世紀の中ごろ近くになると、地域ごとの祭りを統合して、市のメイン・ロードを歩くことを主眼とし始めた [Adair : 2006]。

エスニシティ間の連携ということでは、ミルウォーキー市の場合が示唆的である。ドイツ系カトリックの多かった当市では、一八四三年に司教座聖堂を建立しようとしたが、アイルランド系は、その頃にセントパ・パトリック祭を大路で始めている。グルマーによると、やがて一九世紀の後半にはカトリックということで、主流の集団であったドイツ系との連携も模索された [Grunmer, James [1991]。緑の色はセント・パトリック祭の色であるが、そうした色や四葉のクローヴァーが、パレードで採択されるようになるのも、こうした統合の過程で起こったことである [Adair : 2006]。

黒人解放の南部で生じた解放記念日 (Juneteenth) の祝祭については、ソブレがテキサスのサンアントニオにおけ

るドイツ系、黒人など六種の祭りの変遷を語っているが、それに詳しい。黒人の人々が解放の証として、一張羅のブラントーの洋服に着替えるとか、ブラントーの日常の余暇を経験する儀式を行っている [Sobre : 2003 ; Kauchun : 2003]。また、集団で土地を買い、聖地としているが、解放を白人性によって求めた黒人の状況がここでも理解される。

おわりに

研究史の流れを紹介しながら、祝祭でのパレードという、祝賀政治といわれる一九世紀に生まれた民衆自決による政治形態の理解に努めてきたが、現在の祝祭史研究はまだまだ個別のテストケース的な段階にあることを指摘しなければならぬ。祝賀政治という枠組みに個別の研究を統合するためには、今後、ソブレのように特定の地域に根差した複数の祝祭の比較研究がなされなければならない [Sobre]。また、複数の地域における、ある特定の祝祭の比較研究も積極的に進められなければならない。さらには、それらによって、グルマーによって一部なされているような、インター・レイシヤルな、あるいはインター・エスニックな集団間の相互の関係を問う研究に進むことができると指摘できる。

コミュニケーション手段としての祝祭の点では、祝祭の共通のイデオロギーについてのみならず、企画者、行者、観衆を一体化させるメカニズムについて、さらなる実証研究が待たれる。例えば、独立記念日五〇周年祭に先だって再訪した独立革命の英雄ラファイエットのような、過去と未来をつなぐメッセージの媒介者に焦点を当てた研究は、その一つとなろう。

参考文献

- Adair, Daryl and Mike Cronin [2006], *The Wearing of the Green : A History of St. Patrick's Day* (Routledge)
- Altschuler, Glenn C. and Stuart M. Blumin [1997], "Limits of Political Engagement in Antebellum America : A New Look at the Golden Age of Participatory Democracy," *Journal of American History*, vol.84-3 (Dec.)
- Altschuler and Blumin [2000], *Rule Republic : Americans and Their Politics in the Nineteenth Century* (Princeton UP)
- Appleby, Joyce [2000], *Inheriting the Revolution : The First Generation of Americans* (Cambridge)
- Baker, Jean H. [1997], "Politics, Paradigms, and Public Culture," *Journal of American History*, vol.84-3 (Dec.)
- Baltimore City Council [1880], *Celebration of the 150th Anniversary of the Founding of Baltimore : Programme Procession of History and Industry*, Oct. 11, 1880)
- Bernstein, Peter L. [2005], *Wedding of the Waters : The Erie Canal and the Making of a Great Nation* (NY)
- Bodnar, John [1992], *Remaking America : Public Memory, Commemoration, and Patriotism* (Indiana UP)
- Burstein, Andrew [2001], *America's Jubilee, July 4, 1826 : A Generation Remembers the Revolution after Fifty Years of Independence* (NY)
- Davis, Susan G. [1986], *Parades and Power : Street Theater in Nineteenth-Century Philadelphia* (University of California Press, Berkeley)
- De Bolla, Peter [2007], *The Fourth of July : And the Founding of America* (NY)
- Ehrenreich, Barbara [2006], *Dancing in the Streets : A History of Collective Joy* (NY)
- Foner, Eric. [1999], *The Story of American Freedom* (NY)
- Formisano, Ronald P. [1999], "The Party Period" Revised," *Journal of American History*, vol.86 (June)
- Gienapp, William E. [1982], "Politics Seem to Enter into Everything": Political Culture in the North, 1840-1860," in Stephen E. Maizlish and John J. Kushma (eds.), *Essays on American Politics, 1840-1860* (TX.), 15-6
- Gray, William S., Monroe, Marion, A. Artley, Stehl, and Arbuthnot, May Hill (eds.) [1956], *Parades* (Scott, Foresman and Company)
- Grunmer, James [1991], "Prayers and Parades : Communal Religious Practices among Milwaukee's German Catholics, 1840-1920, in Ste-

- van M. Avella ed., *Milwaukee Catholicism : Essays on Church and Community* (Milwaukee)
- Gutierrez, Ramon A. and others [1989], *Feasts and Celebrations in North American Ethnic Communities* (University of New Mexico Press)
- Henderson, Helene [2006], *Partiotic Holidays of the United States : An Introduction to the History, Symbols, and Traditions Behind the Major Holidays and Days of Observance* (Detroit)
- Hobsbaum, Eric [1991], *Invention of Tradition* (Cambridge UP)
- Jackson, Robert H. ed. [1998], *New Views of Borderlands History* (University of New Mexico Press)
- Jennings, Gary [1966], *Parades! : Celebrations and Circuses on the March* (New York)
- Kauchun, Mitch [2003], *Festivals of Freedom : Memory and Meaning in African American Emancipation Celebrations, 1808–1915* (University of Massachusetts Press)
- Kulikoff, Allan [1992], *The Agrarian Origin of American Capitalism* (Virginia UP)
- Kubal, Timothy [2008], *Cultural Movements and Collective Memory : Christopher Columbus and the Rewriting of the National Origin Myth* (NY)
- Kurasinge, Lon [2002], *Japanese American Celebration and Conflict : A History of Ethnic Identity and Festival, 1934–1990* (California UP)
- McGerr, Michael E. [1988], *The Decline of Popular Politics : The American North, 1865–1928* (Oxford UP)
- McNamara, Brooks [1997], *Day of Jubilee : The Great Age of Public Celebrations in New York, 1788–1909* (Rutgers University Press)
- Michaelsen, Scott and Johnson, David E., eds. [1997], *Border Theory : The Limits of Cultural Politics* (Minnesota UP)
- Miller, Kerby [2001], *Journey of Hope : The Story of Irish Immigration to America* (NY)
- Newman, Simon P. [1997], *Parades and the Politics of the Street* (Penn UP)
- Ozouf, Mona [1988], *Festivals and the French Revolution* (Harvard UP)
- Pasley, Jeffrey L. [1999], "Party Politics, Citizenship, and Collective Action in Nineteenth-Century America : A Response to Stuart Blumin and Michael Schudson, (Paper presented at Conference on "The Transformation of Civic Life" at Middle Tennessee University,

Nov.12-13)

- Prokopowicz, Gerald J. [2009], *Did Lincoln Own Slave? : And Other Frequently Asked Questions about Abraham Lincoln* (NY)
- Ryan, Mary P. [1989], "The American Parade : Representations of the Nineteenth-Century Social Order," in Linn Hunt, ed., *The New Cultural History* (California UP)
- Ryan, Mary P. [1997 a], *Civic Wars : Democracy and Public Life in the American City during the Nineteenth Century* (California UP)
- Ryan, Mary P. [1997 b], "Gender and Public Access : Women's Politics in Nineteenth-Century America," in Craig Calhoun (ed.), *Habermas and the Public Sphere* (Cambridge)
- Santino, Jack [1994], *All Around the Year : Holidays and Celebrations in American Life* (University of Illinois Press)
- Saxton, Alexander [2003], *The Rise and Fall of the White Republic : Class Politics and Mass Culture in Nineteenth-Century America* (NY)
- Scarpaci, Vincenza [2008], *The Journey of the Italians in America* (NY)
- Schudson, Michael [1998], *The Good Citizen : A History of American Civic Life* (NY)
- Schudson [1997], "Was There Even a Public Sphere? If So, When? : Reflections on the American Case" in Craig Calhoun, (ed.), *Habermas and the Public Sphere* (Cambridge)
- Seelye, John [1985], *Rational Exultation : The Erie Canal Celebration* (MA)
- Sobre, Judith Berg [2003], *San Antonio on Parade : Six Historic Festivals* (Texas A & M University Press)
- Speroni, Charles [1948] "The Development of the Columbus Day Pageant of San Francisco," *Western Folklore*, Vol.7, No.4 (Oct)
- Stansell, Christine [1987], *City of Women : Sex and Class in New York, 1789-1860* (Illinois UP)
- Travers, Len [1997], *Celebrating the Fourth : Independence Day and the Rites of Nationalism in the Early Republic* (University of Massachusetts Press)
- Trostel, Scott D. [2002], *The Lincoln Funeral Train : The Final Journey and National Funeral for Abraham Lincoln* (NY)
- Waldstreicher, David [1995], *In the Mist of Perpetual Fetes : The Making of American Nationalism* (NC)
- White, Shane [1994], "'It Was a Proud Day' : African Americans, Festivals, and Parades in the North, 1741-1834," *Journal of American*

History, No.81

Wiebe, Robert H. [1975] *The Segmented Society : An Introduction to the Meaning of America* (NY)

Wiebe, Robert H. [1995], *Self-Rule : A Cultural History of American Democracy* (IL)

Wientz, Sean [1984], *Chants : Democratic New York City and the Rise of the American Working Class, 1788-1850* (Oxford UP)

田中きく代 [二〇〇五]、南北戦争期の社会的ネットワークと女性の公共圏」若尾祐司、栖原彌生、垂水節子共編著『革命と性文化』（山川出版社）

田中きく代 [二〇〇七]、「公道の民主主義——一九世紀アメリカの政治文化とパレード」田中きく代・阿河雄二郎編『道』と境界——森と海の社会史』（昭和堂）